

受験番号

◎ 指示があるまで開かないこと。

令和3年2月17日 午前用
---------------

## 第72回獣医師国家試験 実地試験問題 (C)

### 注意事項

1. 問題数は60問であり、解答時間は2時間である。
2. 解答方法は次のとおりである。

〔1〕 各問題には5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した答えを1つだけ選び、次の例にならって答案用紙にマークすること。なお、1問につき2つ以上マークした場合には、そのうちの1つが正答であっても誤りとして取り扱われる。

(例) 問61 我が国で獣医師国家試験事務を受けもっている省はどれか。

1. 厚生労働省
2. 文部科学省
3. 農林水産省
4. 外務省
5. 国土交通省

正答は「3」であるから、答案用紙の

61 E 1 ☐ E 2 ☐ E 3 ☑ E 4 ☐ E 5 ☐のうちE 3 ☑を横線で、  
61 E 1 ☐ E 2 ☐ ~~E 3 ☑~~ E 4 ☐ E 5 ☐とマークすれば良い。

〔2〕 答案用紙のマークには、必ずHBの鉛筆を使用し、次の良い例のとおり、塗りつぶさずに線を引くこと。

良い例…… 悪い例……

〔3〕 答えを修正する場合は、必ずプラスチック製の消しゴムで完全に消し、消し跡や消しクズが残らないようにすること。消し方が悪いと採点されないの  
で注意すること。

〔4〕 答案用紙は、折り曲げたり、メモやチェックなどで汚したりしないよう特  
に注意すること。



問1 犬、ボーダー・コリー、雄、8歳齢。頻回の嘔吐を主訴に来院。〔図1 - A, B〕は消化管造影 X 線像（A：腹背像、B：側方像）であり、〔図1 - C〕は腹部 CT 検査水平断面像である。ただし腹部 CT 検査は消化管造影後に実施した。最も疑われる疾患・病態はどれか。

1. 胃拡張捻転症候群
2. 胃腫瘍
3. 腸重積
4. 腸管内異物
5. 巨大結腸症

別冊 C  
図 1 - A, B, C

問2 〔図2〕は母マウスの母性行動の1つを示している。矢印の行動に関する記述として適切なのはどれか。

1. 排尿・排便を促す行動
2. 授乳しようとする行動
3. 迷いでた子を自分の側に寄せ集める行動
4. 逆にして異物を吐き出させる行動
5. 生育の悪い子を排除する行動

別冊 C  
図 2

問3 〔図3〕は、安全のために医療機関等で国際的に使用されているシンボルである。感染性であることを示すシンボルはどれか。

1. A
2. B
3. C
4. D
5. E

別冊 C  
図 3

問4 犬、ジャーマン・シェパード・ドッグ、避妊雌、6歳齢。左前肢の跛行を主訴に来院。〔図4-A, B〕は左前肢X線像（A：側方像、B：頭尾像）、〔図4-C〕は病変部の細針吸引細胞診像である（ギムザ染色、×400）。最も疑われる疾患はどれか。

1. 線維肉腫
2. 骨肉腫
3. 滑膜肉腫
4. 多発性骨髄腫
5. 血管肉腫

別冊 C  
図 4-A, B, C

問5 〔図5-A, B〕は2020年6月および9月時点における、ある家畜伝染病のOIEステータスである。この疾患はどれか。

1. 口蹄疫
2. 豚熱（豚コレラ）
3. 牛肺疫
4. 牛海綿状脳症
5. アフリカ馬疫

別冊 C  
図 5-A, B

問6 〔図6〕は馬の腹腔内器官の写真である。図中に示す盲腸とシート状の間膜によって連結している腸管の名称として正しいのはどれか。

1. 十二指腸下行部
2. 回腸
3. 右腹側結腸
4. 左腹側結腸
5. 下行結腸

別冊 C  
図 6

問7 〔図7 - A, B〕はある蜂巢の様子である。この様子が示す疾患はどれか。

1. ヨーロッパ腐蛆病
2. アメリカ腐蛆病
3. ノゼマ病
4. バロア病
5. チョーク病

別冊 C  
図 7 - A, B

問8 犬、フレンチ・ブルドッグ、去勢雄、8歳齢。頸部に3か月前から皮膚病変があり、痒がっているとの主訴で来院。〔図8 - A〕は頸部の外貌である。〔図8 - B, C〕は皮膚病変部の生検病理組織像（HE染色、B：弱拡大像、C：強拡大像）である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 形質細胞腫
2. 犬アトピー性皮膚炎
3. 尋常性天疱瘡
4. 肥満細胞腫
5. 上皮向性リンパ腫

別冊 C  
図 8 - A, B, C

問9 〔図9 - A〕は慢性的な下痢の症状を呈していた牛における回腸の断面の肉眼像（左）を健康牛（右）と比較したものである。〔図9 - B〕は回腸病変部の病理組織像（HE 染色）である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 結核（結核病）
2. 炭疽
3. 牛ウイルス性下痢（牛ウイルス性下痢・粘膜病）
4. ヨーネ病
5. 牛伝染性リンパ腫（牛白血病）

別冊 C  
図 9 - A, B

問10 牛の糞便より〔図10〕を検出する検査法として適当なのはどれか。

- a ベールマン法
- b ビーズ法
- c ホルマリン・エーテル法（MGL 法）
- d ミラシジウム孵化法（ミラシジウム遊出法）
- e 色素試験

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

別冊 C  
図 10

問11 犬、パピヨン、雄、2歳齢。急に倒れたという主訴で来院。〔図11〕は右室流出路における連続波ドプラの血流速度波形である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 肺動脈狭窄症
2. 肺動脈性肺高血圧症
3. 犬糸状虫症
4. 三尖弁逆流症
5. 肺血栓塞栓症

別冊 C

図 11

問12 馬、日本在来種、雄、16歳。〔図12 - A〕は肝臓の肉眼像、〔図12 - B〕は病変部の HE 染色低倍像である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 馬伝染性貧血
2. 包虫症
3. 肝膿瘍
4. 馬ピロプラズマ病
5. 円虫症

別冊 C

図 12 - A, B



**問13** 猫、短毛雑種、雄、4か月齢。食べたものをよく吐くとの主訴で来院。〔図13 - A, B〕は胸部X線像（A：側方像、B：腹背像）、〔図13 - C, D〕は消化管造影X線像（C：側方像、D：腹背像）である。最も疑われる疾患・病態はどれか。

1. 急性胃炎
2. 巨大食道症
3. 食道内異物
4. 血管輪異常
5. 食道裂孔ヘルニア

別冊 C  
図 13 - A, B, C, D

**問14** 豚、交雑種、肥育用、雌、約120日齢。他農場から90日齢の肥育豚を導入する肥育専門農場で、導入後1か月で死亡率が増加した。〔図14〕は死亡豚の胃潰瘍周辺部の病理組織像（HE染色）である。最も適切な病理組織所見はどれか。

1. 扁平上皮化生
2. 偽膜形成
3. 腺様化生
4. 杯細胞化生
5. 錯角化症（不全角化症）

別冊 C  
図 14

**問15** 〔図 15〕は、WHO が公表しているある人獣共通感染症の世界における 2016 年までの発生状況である。この感染症あるいはその病原体に関する記述として適切なのはどれか。

1. ヒトでは弱毒生ワクチンが実用化されている。
2. ベクターはツェツェバエである。
3. ヒトからヒトへの感染は主に血液や体液との直接接触による。
4. 異常気象による大雨の後に発生することが多い。
5. 重篤な神経症状がみられる。

別冊 C

図 15

**問16** 犬、ビーグル、避妊雌、12 歳齢。1 か月前からの頻尿と血尿を主訴に来院。〔図 16 - A〕は膀胱の超音波検査像、〔図 16 - B, C〕は尿沈渣の細胞診像である（ギムザ染色）。最も疑われる疾患はどれか。

1. 平滑筋腫
2. 移行上皮癌
3. 乳頭腫
4. 細菌性膀胱炎
5. リンパ腫

別冊 C

図 16 - A, B, C

問17 慢性鼻炎と発育停滞を呈した肥育豚（180日齢）を鑑定殺した。〔図17〕は生前の顔面の外貌である。疑われる病原体として最も適切なのはどれか。

- a *Erysipelothrix rhusiopathiae*
- b *Staphylococcus hyicus*
- c *Pasteurella multocida*
- d *Bordetella bronchiseptica*
- e *Brucella suis*

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

別冊 C 図 17
--------------

問18 妊娠馬が流産した。流産胎子の胃液を DHL 寒天培地で培養すると腸内細菌科の細菌とともに青丸で囲ったコロニーが散見された〔図18-A〕。流産した母馬の血清を用いた検査を行い、〔図18-B〕に示す結果を得た。最も疑われる感染症に関する記述として適切なのはどれか。

- a 我が国で発生が認められる。
- b 子馬では肺炎を起こす。
- c 飼育環境の土壌中から感染する。
- d 病原体は哺乳類に広く感染する。
- e 成馬では膿瘍を起こすこともある。

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

別冊 C 図 18-A, B
-------------------

**問19** 犬、ヨークシャー・テリア、去勢雄、5歳齢。尿タンパク/クレアチニン比が持続的に高値を示し、各種検査で原因が明らかにならなかったため腎生検を実施した。〔図19〕は腎臓の病理組織像（A：HE染色、B：IgGに対する蛍光抗体法、C：補体C3に対する蛍光抗体法）である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 腎アミロイドーシス
2. 腎盂腎炎
3. 糖尿病性腎症
4. 膜性増殖性糸球体腎炎
5. 膜性腎症（膜性糸球体腎炎）

別冊 C  
図 19 - A, B, C

**問20** 犬、雑種、雄、13歳齢。重度の肝不全を示して死亡した。〔図20〕は肝臓の肉眼像である。この肝臓に観察される組織学的変化として適当なのはどれか。

- a 肝細胞に類似した腫瘍細胞の索状ないし充実性の増殖
- b 周囲に線維化を伴った嚢胞の多発
- c 細菌感染を伴う胆管肝炎ならびに膿瘍形成
- d 肝細胞の脂肪変性ならびに壊死
- e 線維化ならびに偽小葉形成

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

別冊 C  
図 20

**問21** 牛、ホルスタイン種、雄、6か月齢。排尿障害と疝痛症状を主訴に診察依頼があった。〔図 21〕は診察時の外貌であり、包皮周辺に著しい浮腫がみられた。最も疑われる疾患はどれか。

1. アミロイドーシス
2. 水腎症
3. 前立腺炎
4. 尿道破裂
5. 腎盂腎炎

別冊 C  
図 21

**問22** 離乳後 1 週間の子豚に元気消失、歩様蹠踉、後軀麻痺、遊泳運動などの症状が認められた。〔図 22 - A〕は発症豚の頭部、〔図 22 - B〕は死亡豚の腹腔臓器の写真である。最も疑われる疾患の病原体はどれか。

1. オーエスキー病ウイルス
2. 腸管毒血症性大腸菌
3. 豚エンテロウイルス
4. レンサ球菌
5. トキソプラズマ

別冊 C  
図 22 - A, B

**問23** 犬、アイリッシュ・セッター、避妊雌、12歳。2か月前から繰り返す右前肢の跛行を主訴に来院。右肘関節外側の腫脹があり、細針吸引細胞診にて悪性度の高い所見が得られたため、全身麻酔下で右前肢を外科的に切除した。〔図23〕は前肢に形成された病変部の病理組織像（HE染色）である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 腺癌の転移
2. 骨肉腫
3. 軟骨肉腫
4. 線維肉腫
5. 扁平上皮癌の転移

別冊 C  
図 23

**問24** 〔図24 - A〕の左のマウスは正常であり、右のマウスはある病原体に感染している。〔図24 - B〕は感染マウスの腹腔内の病変である。原因となる病原体はどれか。

1. Mouse rotavirus
2. Ectromelia virus
3. Hantavirus
4. Mouse hepatitis virus
5. Murine leukemia virus

別冊 C  
図 24 - A, B

**問25** 食中毒の原因食品から〔図 25〕の病原体が検出された。この食中毒あるいは病原体に関する記述として適切なのはどれか。

1.  $-20^{\circ}\text{C}$ で24時間以上冷凍しても死滅しない。
2. 激しい上腹部痛がみられることが多い。
3. 我が国で平成25年以降の発生は報告されていない。
4. ヒトからヒトへ感染が容易に起きる。
5. ヒラメを生食することで発生する。

別冊 C  
図 25

**問26** 犬、ミニチュア・シュナウザー、避妊雌、8歳齢。時折失神をするという主訴で来院。〔図 26〕は安静時心電図（II誘導）である。最も疑われる疾患・病態はどれか。

1. 心房細動
2. 房室ブロック
3. 洞房ブロック
4. 洞停止
5. 心房性期外収縮

別冊 C  
図 26

問27 〔図 27 - A〕と〔図 27 - B〕は牛の奇形胎子を示している。A、B の名称の組合せとして適切なのはどれか。

- | A          | B       |
|------------|---------|
| 1. 胎子ミイラ変性 | 気腫胎     |
| 2. 反転性裂体   | 無形無心体   |
| 3. 無形無心体   | 胎子ミイラ変性 |
| 4. 気腫胎     | 無形無心体   |
| 5. 反転性裂体   | 胎子浸漬    |

別冊 C  
図 27 - A, B

問28 ヒトで嘔吐や下痢などを呈する食中毒が発生した。原因を調査したところ、ある有毒植物を食用植物と誤認して喫食したことが疑われた。〔図 28〕の右側は疑われる有毒植物、左側は誤認された食用植物である。この有毒植物はどれか。

1. イヌサフラン
2. トリカブト
3. チョウセンアサガオ
4. スイセン
5. バイケイソウ

別冊 C  
図 28



**問29** 牛、黒毛和種、雄、13日齢。9日齢時から突然、右後肢を引きずるような歩様を確認された。〔図29〕は本症例の臀部X線腹背像である。歩様異常の原因として最も疑われる疾患はどれか。

1. 骨盤骨折
2. 股関節脱臼
3. 大腿骨骨折
4. 大腿骨頭壊死症
5. くる病

別冊 C  
図 29

**問30** 〔図30〕は「環境基本法」に基づく「地下水の水質汚濁に係る環境基準」の項目別超過率の推移を表している。(ア)の項目はどれか。

1. ヒ素
2. 硝酸性窒素および亜硝酸性窒素
3. フッ素
4. テトラクロロエチレン
5. 鉛

別冊 C  
図 30

**問31** 牛、ホルスタイン種、雌、2歳齢。〔図31〕は分娩介助の様子である。この胎位胎向として適切なのはどれか。

1. 尾位下体向
2. 側頭位
3. 胸頭位
4. 正常頭位
5. 正常尾位

別冊 C  
図 31

**問32** 犬、トイ・プードル、去勢雄、6歳齢。数年前から物にぶつかる徴候があり、最近悪化してきたとの主訴で来院。両眼とも、威嚇瞬目反応は陰性、対光反射は減弱していた。眼圧は正常であった。〔図32〕は右眼の眼底像である。左眼も同様の所見であった。最も疑われる疾患はどれか。

1. 突発性後天性網膜変性症
2. 視神経炎
3. 網膜剥離
4. 進行性網膜萎縮
5. 網膜出血

別冊 C  
図 32

問33 〔図 33〕の下水処理方法はどれか。

1. 回分式活性汚泥法
2. 標準活性汚泥法
3. 回転生物接触法
4. オキシデーシヨンディッチ（酸化溝）法
5. 酸化池法

別冊 C

図 33

問34 〔図 34 - A〕は鶏にみられた下痢便である。〔図 34 - B〕は解剖時に小腸にみられた病変、〔図 34 - C〕は中脳の組織像（HE 染色）である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 鶏脳脊髄炎
2. 鶏大腸菌症
3. ニューカッスル病
4. 家きんコレラ
5. 壊死性腸炎（クロストリジウム病）

別冊 C

図 34 - A, B, C

**問35** 牛、ホルスタイン種、雌、7歳齢。人工授精後2か月間発情が回帰せず、妊娠診断を実施した。腔検査では異常な所見はみられなかった。直腸検査では左卵巢に黄体が触知され、左右の子宮角は膨満し、子宮は弛緩して波動感を認めた。〔図35〕は診断時の子宮の超音波検査像である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 子宮粘液症
2. 子宮水腫
3. 滲出性子宮内膜炎
4. 子宮蓄膿症
5. 子宮筋炎

別冊 C  
図 35

**問36** 動物におけるある疾患の発生率（罹患率）を明らかにするため、8頭の個体（A～H）を対象として5年間の追跡調査を行った。〔図36〕は観察結果を示している。図中の黒い破線はそれぞれの動物個体の観察期間、赤い実線は動物個体における疾患発生を示している。観察期間における発生率の計算式はどれか。尚、個体Hは観察開始時にすでに罹患していたものとする。

1.  $3 \text{ (頭)} \div 25 \text{ (頭-年)}$
2.  $3 \text{ (頭)} \div 31 \text{ (頭-年)}$
3.  $4 \text{ (頭)} \div 8 \text{ (頭-年)}$
4.  $4 \text{ (頭)} \div 33 \text{ (頭-年)}$
5.  $8 \text{ (頭)} \div 33 \text{ (頭-年)}$

別冊 C  
図 36

問37 〔図 37〕は血液寒天培地に *Staphylococcus aureus* と被検細菌を画線培養した試験の陽性像である。被検細菌はどれか。

- a *Listeria monocytogenes*
- b *Yersinia pestis*
- c *Clostridium perfringens*
- d *Klebsiella pneumoniae*
- e *Streptococcus agalactiae*

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

別冊 C  
図 37

問38 犬、雑種、雄、8か月齢。2か月前から沈うつ、ふらつきが認められるようになったとの主訴で来院。〔図 38〕は脳の MRI 横断像（T2 強調像）である。最も疑われる疾患に関する記述として適切でないのはどれか。

- 1. 小型犬種での発症が多い。
- 2. 脊髄空洞症を併発することがある。
- 3. 旋回やてんかん発作が認められることがある。
- 4. ステロイドは感染を悪化させるため禁忌である。
- 5. 脳室腹腔シャントが手術として選択される。

別冊 C  
図 38

**問39** 犬、ヨークシャー・テリア、避妊雌、6歳齢。全身性强直性けいれんが頻発するとの主訴で来院。〔図39 - A, B, C, D〕は頭部MRI横断像（A：T2強調像、B：T1強調像、C：T2-FLAIR像、D：ガドリニウム造影T1強調像）である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 壊死性白質脳炎
2. 壊死性髄膜脳炎
3. 転移性脳腫瘍
4. 神経膠腫
5. 髄膜腫

別冊 C  
図 39 - A, B, C, D

**問40** 犬、雑種、去勢雄、9歳齢。2か月前より慢性の発咳があったが、急に呼吸困難を呈したとの主訴で来院。身体検査で心雑音は聴取されず、チアノーゼを認めた。〔図40 - A, B〕は胸部X線画像（A：側方像、B：背腹像）である。X線画像から判断できる異常として適切なものはどれか。

- a 食道拡張
- b 気管狭窄
- c 気胸
- d 肺野の腫瘍
- e 左心房拡張

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

別冊 C  
図 40 - A, B

問41 長期にわたり肥育豚の下痢や消瘦が発生している農場において、120日齢の豚より直腸便を採材したところ、〔図41〕のような菌が確認された（グラム染色）。最も疑われる疾患はどれか。

1. 浮腫病
2. 豚赤痢
3. グレーサー病
4. 豚丹毒
5. 増殖性腸炎

別冊 C

図 41

問42 犬、雑種、去勢雄、7歳齢。口腔内に腫瘤を発見したとの主訴で来院。〔図42 - A〕は症例の外貌、〔図42 - B〕は病変部の穿刺で回収された液体である。この疾患に関する記述として誤っているのはどれか。

1. 唾液腺導管の破綻が原因である。
2. ガマ腫とも呼ばれる。
3. 頸部に病変を形成することもある。
4. 根治には下顎腺と舌下腺の切除が必要である。
5. 術後は生涯にわたってコルチコステロイドの投与が必要である。

別冊 C

図 42 - A, B

**問43** 〔図 43〕は 2013 年から 2018 年におけるある人獣共通感染症の都道府県別患者届出数である。この感染症はどれか。

1. ライム病
2. Q 熱
3. オウム病
4. ツツガムシ病
5. 野兔病

別冊 C  
図 43

**問44** 犬、ペキニーズ、雄、3 歳齢。2 日前から突然後肢が動かなくなったとの主訴で来院。〔図 44 - A, B〕は、胸腰部 MRI 検査の T2 強調像（A：矢状断像、B：横断像）である。本症例に対する外科手術として最も適切なのはどれか。

1. 片側椎弓切除術
2. 背側椎弓切除術
3. 腹側減圧術
4. 椎間板造窓術
5. 椎体固定術

別冊 C  
図 44 - A, B



**問45** 犬、柴犬、雄、8歳齢。1年前より頭部から前肢にかけて広範囲にわたり、脱毛を伴う皮膚の発赤や丘疹、痂皮形成がみられるとの主訴で来院。皮膚病変部を搔爬し、水酸化カリウム水溶液を滴下して顕微鏡で観察したところ、〔図45〕に示す虫体が多数検出された。この症例への対応として適切なのはどれか。

- a イベルメクチンを投与する。
- b 細菌の二次感染がある場合は抗菌薬を投与する。
- c コルチコステロイドを皮膚病変部に塗布する。
- d 飼い主など接触歴のある者への感染を検査する。
- e 飼育環境を清掃して虫卵および幼虫を除去する。

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

別冊 C

図 45

**問46** 放牧中の乳牛に嘔吐、泡沫性流涎、起立不能、呼吸促迫が認められた。〔図46〕は採食が疑われた植物である。この植物は何か。

- 1. スズラン
- 2. キョウチクトウ
- 3. アセビ
- 4. オオオナモミ
- 5. ドクウツギ

別冊 C

図 46

**問47** 猫、雑種、雌、1歳齢。活動性の低下と呼吸促迫を主訴に来院。心音がやや聞き取りにくかった。〔図47-A, B〕は胸部X線像（A：側方像、B：腹背像）である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 腹膜心膜横隔膜ヘルニア
2. 漏斗胸
3. 肥大型心筋症
4. 心タンポナーデ
5. 胸腺腫

別冊 C  
図 47 - A, B

**問48** 〔図48〕は乳牛の下腹部の外貌である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 光線過敏症
2. 牛伝染性リンパ腫（牛白血病）
3. 皮膚糸状菌症
4. デルマトフィルス症
5. 乳頭腫

別冊 C  
図 48

**問49** 猫、雑種、去勢雄、10歳齢。右眼の色が変わってきたという主訴で来院。  
〔図49〕は本症例の外貌である。最も疑われる疾患・病態はどれか。

1. 虹彩の萎縮
2. 虹彩メラノーマ
3. 前眼房出血
4. ぶどう膜炎
5. 全眼炎

別冊 C  
図 49

**問50** 呼吸器症状を呈し死亡した牛の肺から分離された細菌が〔図50〕のようなコロニーを作った。最も疑われる疾患はどれか。

1. ブルセラ症（ブルセラ病）
2. 結核（結核病）
3. 牛肺疫
4. ヨーネ病
5. 牛のサルモネラ症

別冊 C  
図 50

**問51** 犬、雑種、避妊雌、7か月齢。左後肢の跛行が徐々に悪化し、挙上するようになったとの主訴で来院。〔図 51〕は骨盤周囲の X 線腹背像である。この疾患に関する記述として適切なのはどれか。

- a 大腿骨頭に虚血性壊死が生じる。
- b 遺伝的因子は関与しない。
- c 通常は両側性に発症する。
- d 大型犬で発生が多い。
- e 外科的治療法として大腿骨頭骨頸部切除が選択される。

1. a, b    2. a, e    3. b, c    4. c, d    5. d, e

別冊 C  
図 51

**問52** 可視粘膜蒼白および下痢を呈する子馬の糞便で〔図 52〕の虫卵が認められた。本症例の下痢の原因として最も適切なのはどれか。

- 1. 円虫
- 2. 回虫
- 3. 条虫
- 4. 糸状虫
- 5. 馬胃虫

別冊 C  
図 52

**問53** 猫、雑種、避妊雌、10歳齢。鼻腔内に限局したリンパ腫に対して、放射線治療を実施した。経過観察を行っていたところ、眼に〔図53〕のような変化を生じた。この変化に関する記述として適切なのはどれか。

1. 進行した後も、自然発生のもとの病理学的に区別できる。
2. 犬ではこのような変化は見られない。
3. 放射線治療後2～3か月で発生する。
4. 予防には点眼薬が効果的である。
5. 一定の線量以上の被ばくにより発生する。

別冊 C

図 53

**問54** 〔図54〕は子豚の便から分離されたウイルス RNA のポリアクリルアミドゲル電気泳動パターンである。最も疑われる感染症はどれか。

1. 豚流行性下痢
2. 豚熱（豚コレラ）
3. 伝染性胃腸炎
4. 豚水疱病（豚水泡病）
5. ロタウイルス病

別冊 C

図 54

問55 牛、ホルスタイン種、雌、5歳齢。牛の様子がおかしいということで診察した。  
〔図55〕は症例の外貌である。この疾患について誤っているのはどれか。

1. 発情期の牛に発生することが多い。
2. 前回分娩時の膣の損傷は発生誘因となる。
3. 軽度の場合、起立時には異常がみられない。
4. 脱出部が乾燥、硬結すると還納困難となる。
5. 脱出した部位を整復した後に陰門を縫合する処置法がある。

別冊 C

図 55

問56 犬、トイ・プードル、去勢雄、1歳齢。突然右前肢を挙上するようになったとの主訴で来院。〔図56 - A, B〕は右前肢 X線像（A：側方像、B：頭尾像）である。本症例の治療として最も適切なものはどれか。

1. 副子固定法
2. 髄内ピン法
3. インターロッキングネイル法
4. サークラージワイヤー法
5. 骨プレート法

別冊 C

図 56 - A, B

問57 経産牛が突然 40℃の発熱、飲食廃絶、後躯蹠踉を呈し、左前乳房および乳頭に紫斑と冷感を示した。乳汁がポートワイン様の水様乳で、PLテスト陽性であったため、乳房炎と診断して血液寒天培地に乳汁を塗布し、37℃、24時間好気培養を行った。〔図 57〕は培養により得られたコロニーである。この乳房炎の原因菌として最も疑われるのはどれか。

1. *Klebsiella pneumoniae*
2. *Escherichia coli*
3. *Staphylococcus aureus*
4. *Pseudomonas aeruginosa*
5. *Streptococcus uberis*

別冊 C  
図 57

問58 〔図 58〕は新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の電子顕微鏡写真である。矢印が示すタンパク質はどれか。

1. エンベロープ
2. マトリックス
3. コア
4. スパイク
5. メンブレン

別冊 C  
図 58

問59 犬、アメリカン・コッカー・スパニエル、去勢雄、11歳齢。夜間に呼吸が苦しそうとの主訴で来院。〔図59 - A, B〕は胸部X線像（A：側方像、B：腹背像）である。X線画像上で確認できる所見として、適当なのはどれか。

- a 心陰影が不明瞭である。
- b 右前胸部に巨大腫瘤を認める。
- c 多量の胸水が貯留している。
- d 食道拡張を認める。
- e 左肺前葉の肺胞パターンが認められる。

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

別冊 C  
図 59 - A, B

問60 犬、トイ・プードル、避妊雌、5歳齢。3か月前に高所から落下し、左橈尺骨を骨折。ギプス固定により治療されたが癒合不全となった。〔図60 - A, B〕は左前肢X線像（A：側方像、B：頭尾像）である。本症例の癒合不全の分類と生物活性の組合せとして適切なのはどれか。

分類	生物活性
1. 萎縮型	—— なし
2. 壊死型	—— なし
3. 過剰仮骨型	—— あり
4. 異栄養型	—— なし
5. 寡少仮骨型	—— あり

別冊 C  
図 60 - A, B









